

ふるさとのお宝再発見

85



この特集をさらにご希望の方は、新聞販売店か近くのコンビニでお求め下さい

びやっこ
白狐いなり

信仰の社は諏訪の工匠の極み

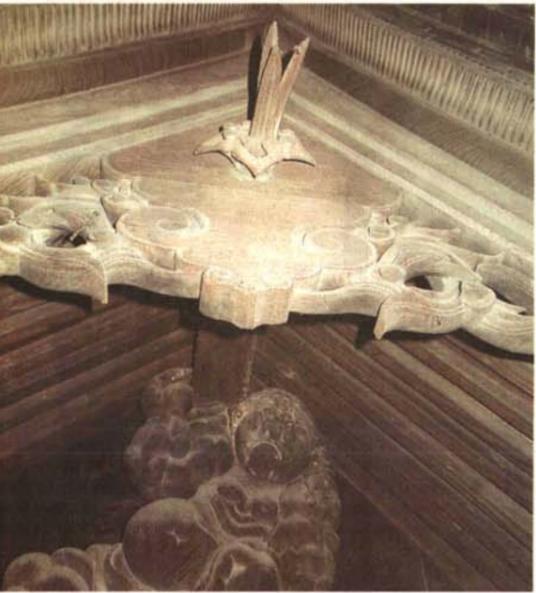
諏訪市

十数年前まで、上諏訪駅前に「白狐経由大熊行」のバス停がありました。白い狐を絵柄にしてその先は大きい熊、初めて見た人はここに連れて行かれるのか、不安に思ったことでしょうか。神社や地名はおもしろいものです。

白狐稲荷社周辺はもと諏訪湖に突き出した島で、白狐島といいました。寛永年間(1624-43年)に白狐島新田が開発されました。いつも満水に悩まされ、そのたびに戸数が減り、後に上桑原村に合併されました。江戸時代の中頃、治水対策として白狐島の前の中川をせき止めて湛えを造り、水門を設けて高島城への御用水、また小和田田んぼへの灌漑用水が引かれました。今なお大切な水源です。

農耕の守護神として

水の引き入れ口や、田んぼに囲まれたこんもりとした森に稲荷を祭ることは、中世以降全国的に行われてきました。



懸魚④と棟木を担ぐ力神⑤。懸魚の櫛の口は先端が3片に尖った口栓

その白狐の林の中に、この驚異的な透かし彫り(龍彫り)があつたと思いませんでした。全体に精緻きわまる一間社流れ造りの本殿。海老虹梁を波の透かし彫りにして、なんとその中に上り鯉、下り鯉を泳がせているのです。さらに手挟みには龍彫りの迫力満点の神龜(賽亀)、裏側も見逃せません。川の中央の稲荷故に、水に鯉を配したのでしょうか。上り鯉、下り鯉といえはこの時期八ヶ岳編笠の雪形を思い浮かべます。八ヶ岳には雪形は少ないのですが、



八ヶ岳編笠山の雪形。左は下り鯉、右は上り鯉

久力はあるものの、運動神経と脚力のない私は最後の集団の末尾を常に走っていました。青春のさわやかな汗の思い出です。

社殿に驚きの上り鯉、下り鯉

この側線が「登竜門」と呼ばれています。同じように龍の鱗は9×9=81枚あるとされています(特にどの下の一枚を逆鱗といいますが)。そこで鯉が龍になることを「六六変じて九九となる」と言います。鯉は立身出世の象徴なのです。生命力はきわめて強く、長寿でまれに70年も生きることがあるそうです。また、食べる

今回は、前半部分を白狐稲荷社宮司の宮坂清さん、後半部分を岡谷市文化財保護審議会委員、諏訪市文化財専門審議会委員で、諏訪総合設計代表の宮坂正博さんに執筆いただきました。

よくみられることで、狐塚と呼ぶところもありま

す。白狐稲荷社も湛えの守り神、農耕の守護神として祭られたものです。この祭神は倉稲魂神という穀物の神さまで、白狐とか白狐のお稲荷さんと親しまれ信仰されています。

本殿には京都の伏見稲荷大社から受けた分霊が祭られています。勧請書が見当たらないため詳細はわかりませんが、箱書きからみると19世紀の初め頃、同社の祠宮を勧めた鳥居南和泉守から授けられたことがわかります。

中世以降、稲荷信仰が庶民に広まり、江戸時代には「伊勢屋・稲荷に大のく」といわれるほど、江戸の街中あちこちに稲荷の祠がありました。全国でも多く祭られている神様です。江戸時代後期には、高島藩士が屋敷稲荷として、また上諏訪の城下町の商家は商売繁盛、また同じ氏族では「マキの祝神」として盛んに祭られています。

『諏訪郡諸村並藩領年代記』に「白狐嶋正一位稲荷大明神 一國一社信州稲荷之社也」とあり、白狐稲荷は信州のお稲荷さまの惣社と受け止められていました。

農家ははじめ近隣の崇敬者の信仰を集め、寄進された石玉垣の中には、上諏訪遊郭貸座敷中や下諏訪遊郭中・芸妓組合の文字が目に入ります。舟で中川を往來したのでしょうか。湛えの水音が、芸者衆を迎える人々のさわめきに聞こえます。2月の初午が縁日、赤い幟旗が建ち並び、遠近から

の参拝者に甘酒が振る舞われ賑わいます。

高島藩主の信仰もあつく、境内には藩主の胸衣を供養したといわれる「南無阿弥陀仏」の石碑があります。

本殿は1846(嘉永元)年の御柱年に、大岡流の宮大工伊藤安兵衛の弟子伊藤重蔵等によって再建されたもので、その彫刻は大変に見事なものです。旧殿は諏訪市赤羽根区に移され、大岡神社として鎮まっています。



一間社流れ造りの本殿。正面の虹梁は躍動感あふれる龍。卯の毛通しは鶴に松の彫刻。木鼻は獅子と象

ここから見えるかと眺めましたが、残念ながら白狐からは見えません。

中学の理科授業

とろろと懸魚の六隅の中央の櫛の口栓は、普通は丸い櫛の栓になっているのですが、ここでは先端を3片の尖らせた口栓にしています。一体何を意味しているのでしょうか。不思議な形態です。

波の籠上り下り鯉に香 天沙

若林純さん撮影・構成「写社の装飾彫刻中部編」(日貿出版社)を見ていて驚きました。何と龍門で鯉がまき龍に変わろうとする姿を彫り込んだ石雲院(静岡県牧之原市坂口)の写真を見付けたのです。急流の中で、上半身は龍で下半身はまだ鯉なのです。何とすこい発想をするのでしょうか。いつか見に行かねばなりません。



白狐湛えと中門川に面した森の中に祭られている白狐稲荷社

記事内に字句の誤りがありましたので、下記の通り訂正致します。

右上段写真の注釈
(誤) 一間社流れ造りの本殿
(正) 一間社平入り唐破風造りの本殿

次回は乙事諏訪社(富士見町)を紹介します。